



## APPENDIX **B**

# Catalyst 2960、2960-S、および 2960-C スイッチのデバッグ コマンド

---

この付録では、Catalyst 2960、2960-S、および 2960-C スイッチで使用するために作成または変更された **debug** 特権 EXEC コマンドについて説明します。これらのコマンドは、インターネットワーキングの問題の診断および解決に役立ちます。使用する場合には、必ずシスコのテクニカル サポート担当者の指示に従ってください。



**注意**

デバッグ出力には、CPU プロセスで高いプライオリティが与えられるため、システムが使用不能になる可能性があります。したがって、**debug** コマンドを使用するのは、特定の問題のトラブルシューティング時、またはシスコのテクニカル サポート担当者とともにトラブルシューティングを行う場合に限定してください。**debug** コマンドは、ネットワーク トラフィックが少なく、ユーザも少ないときに使用するのが最良です。このような時間帯を選んでデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理の負担によってシステム利用が影響を受ける可能性が少なくなります。

---

# debug authentication

インターフェイスの認証設定のデバッグをイネーブルにするには、**debug authentication** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug authentication {all | errors | events | sync | feature [all] [acct] [auth_fail_vlan]
[auth_policy] [autocfg] [critical] [dhcp] [guest_vlan] [mab_pm] [mda] [multi_auth]
[switch_pm] [switch_sync] [vlan_assign] [voice] [webauth] [all | errors | events]}
```

```
no debug authentication {all | errors | events | sync | feature [all] [acct] [auth_fail_vlan]
[auth_policy] [autocfg] [critical] [dhcp] [guest_vlan] [mab_pm] [mda] [multi_auth]
[switch_pm] [switch_sync] [vlan_assign] [voice] [webauth] [all | errors | events]}
```

## 構文の説明

<b>acct</b>	(任意) 認証マネージャ アカウンティング情報を表示します。
<b>all</b>	(任意) 認証マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>auth_fail_vlan</b>	(任意) 制限された VLAN の認証マネージャ エラーを表示します。
<b>auth_policy</b>	(任意) 認証ポリシー メッセージを表示します。
<b>autocfg</b>	(任意) 自動設定認証マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>critical</b>	(任意) アクセス不能な認証バイパス メッセージを表示します。 <b>(注)</b> アクセス不能な認証バイパス機能は、クリティカル認証または Authentication, Authorization, and Accounting (AAA; 認証、認可、アカウンティング) 失敗ポリシーとも呼ばれています。
<b>dhcp</b>	(任意) DHCP ダイナミック アドレス対応インターフェイスでの認証マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	(任意) 認証マネージャ エラー デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>events</b>	(任意) すべての認証マネージャ イベントのデバッグ メッセージ (レジストリおよび各種イベントを含む) を表示します。
<b>feature</b>	(任意) 認証マネージャ機能のデバッグ メッセージを表示します。
<b>guest_vlan</b>	(任意) ゲスト VLAN 認証マネージャ メッセージを表示します。
<b>mab_pm</b>	(任意) MAC 認証マネージャ バイパス認証デバッグ メッセージを表示します。
<b>mda</b>	(任意) マルチドメイン認証マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>multi_auth</b>	(任意) マルチ認証マネージャ デバッグ認証メッセージを表示します。
<b>switch_pm</b>	(任意) スイッチ ポート マネージャ メッセージを表示します。
<b>switch_sync</b>	(任意) スイッチ、認証サーバ、および接続装置の間の同期メッセージを表示します。
<b>sync</b>	(任意) 操作同期認証マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlan_assign</b>	(任意) VLAN-assignment デバッグ メッセージを表示します。
<b>voice</b>	(任意) 音声 VLAN デバッグ メッセージを表示します。
<b>webauth</b>	(任意) Web 認証マネージャ デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

認証デバッグはディセーブルです。

コマンドモード 特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(50)SE	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**undebbug authentication** コマンドは、**no debug authentication** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。

スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始して、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug authentication** コマンドを入力できます。また、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用して、スタック メンバのデバッグをイネーブルにすることもできます。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>authentication control-direction</b>	ポート モードを単一方向または双方向に設定します。
<b>authentication event</b>	特定の認証イベントのアクションを設定します。
<b>authentication event linksec fail action</b>	IEEE 802.1x 認証をサポートしないクライアント用のフォールバック方式として Web 認証を使用するようポートを設定します。
<b>authentication host-mode</b>	ポートで認証マネージャ モードを設定します。
<b>authentication open</b>	ポートでオープン アクセスをイネーブルまたはディセーブルにします。
<b>authentication order</b>	ポートで使用する認証方式の順序を設定します。
<b>authentication periodic</b>	ポートで再認証をイネーブルまたはディセーブルにします。
<b>authentication port-control</b>	ポートの認証ステータスの手動制御をイネーブルにします。
<b>authentication priority</b>	ポート プライオリティ リストに認証方式を追加します。
<b>authentication violation</b>	新しいデバイスがポートに接続するか、ポートに最大数のデバイスが接続した後で、新しいデバイスがポートに接続した場合に発生する違反モードを設定します。
<b>show authentication</b>	スイッチの認証マネージャ イベントに関する情報を表示します。

# debug auto qos

Automatic Quality of Service (auto-QoS) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug auto qos** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug auto qos**

**no debug auto qos**



(注)

このコマンドを使用するには、スイッチが LAN Base イメージを実行している必要があります。

## 構文の説明

このコマンドには、キーワードと引数はありません。

## デフォルト

auto-QoS デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

auto-QoS がイネーブルのときに自動的に生成される QoS の設定を表示するには、auto-QoS をイネーブルにする前にデバッグをイネーブルにします。デバッグをイネーブルするには、**debug auto qos** 特権 EXEC コマンドを入力します。

**undebug auto qos** コマンドは、**no debug auto qos** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 例

次の例では、auto-QoS がイネーブルの場合に自動的に生成される QoS 設定を表示する方法を示します。

```
Switch# debug auto qos
AutoQoS debugging is on
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# auto qos voip cisco-phone
```

```
21:29:41: mls qos map cos-dscp 0 8 16 26 32 46 48 56
```

```

21:29:41: mls qos
21:29:42: no mls qos srr-queue input cos-map
21:29:42: no mls qos srr-queue output cos-map
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 1 threshold 3 0
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 1 threshold 2 1
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 1 2
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 2 4 6 7
21:29:43: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 3 3 5
21:29:43: mls qos srr-queue output cos-map queue 1 threshold 3 5
21:29:43: mls qos srr-queue output cos-map queue 2 threshold 3 3 6 7
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 3 threshold 3 2 4
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 4 threshold 2 1
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 4 threshold 3 0
21:29:44: no mls qos srr-queue input dscp-map
21:29:44: no mls qos srr-queue output dscp-map
21:29:44: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 2 9 10 11 12 13 14 15
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 3 0 1 2 3 4 5 6 7
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 3 32
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 1 16 17 18 19 20 21 22 23
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 33 34 35 36 37 38 39 48
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 49 50 51 52 53 54 55 56
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 57 58 59 60 61 62 63
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 3 24 25 26 27 28 29 30 31
21:29:47: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 3 40 41 42 43 44 45 46 47
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 1 threshold 3 40 41 42 43 44 45 46 47
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 24 25 26 27 28 29 30 31
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 48 49 50 51 52 53 54 55
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 56 57 58 59 60 61 62 63
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 3 threshold 3 16 17 18 19 20 21 22 23
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 3 threshold 3 32 33 34 35 36 37 38 39
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 1 8
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 2 9 10 11 12 13 14 15
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 3 0 1 2 3 4 5 6 7
21:29:49: no mls qos srr-queue input priority-queue 1
21:29:49: no mls qos srr-queue input priority-queue 2
21:29:50: mls qos srr-queue input bandwidth 90 10
21:29:50: no mls qos srr-queue input buffers
21:29:50: mls qos queue-set output 1 buffers 10 10 26 54
21:29:50: interface GigabitEthernet2/0/1
21:29:50: mls qos trust device cisco-phone
21:29:50: mls qos trust cos
21:29:50: no queue-set 1
21:29:50: srr-queue bandwidth shape 10 0 0 0
21:29:50: srr-queue bandwidth share 10 10 60 20

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>auto qos voip</b>	QoS ドメイン内で Voice over IP (VoIP) の auto-QoS を設定します。
<b>show auto qos</b>	auto-QoS 機能によって生成された初期設定を表示します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug backup

Flex Link バックアップ インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug backup** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug backup {all | errors | events | vlan-load-balancing}**

**no debug backup {all | errors | events | vlan-load-balancing}**

## 構文の説明

<b>all</b>	バックアップ インターフェイスのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	バックアップ インターフェイスのエラーまたは例外デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	バックアップ インターフェイスのイベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlan-load-balancing</b>	バックアップ インターフェイスの VLAN ロード バランシングを表示します。

## デフォルト

バックアップ インターフェイス デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug backup** コマンドは、**no debug backup** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug cisp

Client Information Signalling Protocol (CISP) に対応したインターフェイス上で発生したメッセージ交換とイベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug cisp** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug cisp [all | errors | events | packets | sync]**

**no debug cisp [initialization | interface-configuration | rpc]**

## 構文の説明

<b>all</b>	CISP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	CISP デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	CISP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	CISP パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>sync</b>	CISP 操作同期デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(50)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug cisp** コマンドは、**no debug cisp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cisp enable</b>	Client Information Signalling Protocol (CISP) をイネーブルにします。
<b>dot1x credentials</b> (グローバル コンフィギュレーション) <i>profile</i>	プロファイルをサブリカント スイッチに設定します。
<b>show cisp</b>	指定されたインターフェイスの CISP 情報を表示します。

# debug cluster

クラスタ固有イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug cluster** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug cluster {discovery | events | extended | hsrp | http | ip [packet] | members | nat | neighbors | platform | snmp | vqpxy}
```

```
no debug cluster {discovery | events | extended | hsrp | http | ip [packet] | members | nat | neighbors | platform | snmp | vqpxy}
```

## 構文の説明

<b>discovery</b>	クラスタ ディスカバリ デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	クラスタ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>extended</b>	拡張ディスカバリ デバッグ メッセージを表示します。
<b>hsrp</b>	Hot Standby Router Protocol (HSRP; ホットスタンバイ ルータ プロトコル) デバッグ メッセージを表示します。
<b>http</b>	Hypertext Transfer Protocol (HTTP; ハイパーテキスト転送プロトコル) デバッグ メッセージを表示します。
<b>ip</b> [ <b>packet</b> ]	IP またはトランスポート パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>members</b>	クラスタ メンバ デバッグ メッセージを表示します。
<b>nat</b>	ネットワーク アドレス変換 (NAT) デバッグ メッセージを表示します。
<b>neighbors</b>	クラスタ ネイバー デバッグ メッセージを表示します。
<b>platform</b>	プラットフォーム特定クラスタ デバッグ メッセージを表示します。
<b>snmp</b>	Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) デバッグ メッセージを表示します。
<b>vqpxy</b>	VLAN Query Protocol (VQP) プロキシデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドが利用できるのは、クラスタ コマンド スイッチ スタックまたはクラスタ コマンド スイッチに限られます。

**undebug cluster** コマンドは、**no debug cluster** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプト



で **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show cluster</b>	スイッチが属するクラスタのステータスおよびサマリーを表示します。
<b>show cluster candidates</b>	コマンド スイッチ上で入力された場合に候補スイッチのリストを表示します。
<b>show cluster members</b>	コマンド スイッチ上で実行された場合にクラスタ メンバに関する情報を表示します。

# debug dot1x

IEEE 802.1x 認証機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug dot1x** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dot1x {all | errors | events | feature | packets | registry | state-machine}
```

```
no debug dot1x {all | errors | events | feature | packets | registry | state-machine}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての IEEE 802.1x 認証デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	IEEE 802.1x エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	IEEE 802.1x イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>feature</b>	IEEE 802.1x 機能のデバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	IEEE 802.1x パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>registry</b>	IEEE 802.1x レジストリ呼び出しのデバッグ メッセージを表示します。
<b>state-machine</b>	ステート マシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**redundancy** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。
12.2(25)SEE	<b>feature</b> キーワードが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug dot1x** コマンドは、**no debug dot1x** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<code>show dot1x</code>	スイッチまたは指定されたポートの IEEE 802.1x 統計情報、管理ステータス、および動作ステータスを表示します。

# debug dtp

Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランキング プロトコル) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug dtp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dtp {aggregation | all | decision | events | oserrs | packets | queue | states | timers}
```

```
no debug dtp {aggregation | all | decision | events | oserrs | packets | queue | states |
timers}
```

## 構文の説明

<b>aggregation</b>	DTP ユーザ メッセージ アグリゲーション デバッグ メッセージを表示します。
<b>all</b>	すべての DTP デバッグ メッセージを表示します。
<b>decision</b>	DTP 決定テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	DTP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>oserrs</b>	DTP オペレーティングシステム関連エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	DTP パケット処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>queue</b>	DTP パケット キューイング デバッグ メッセージを表示します。
<b>states</b>	DTP ステート遷移デバッグ メッセージを表示します。
<b>timers</b>	DTP タイマー イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug dtp** コマンドは、**no debug dtp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show dtp</b>	スイッチまたは指定されたインターフェイスの DTP 情報を表示します。

# debug eap

Extensible Authentication Protocol (EAP) のアクティビティをデバッグするには、**debug eap** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dot1x {all | authenticator | errors | events | md5 | packets | peer | sm}
```

```
no debug dot1x {all | authenticator | errors | events | md5 | packets | peer | sm}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	EAP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>authenticator</b>	オーセンティケータ デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	EAP エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	EAP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>md5</b>	EAP-MD5 デバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	EAP パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>peer</b>	EAP ピア デバッグ メッセージを表示します。
<b>sm</b>	EAP ステート マシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)SEE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug dot1x** コマンドは、**no debug dot1x** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show eap</b>	スイッチまたは指定されたポートの EAP のレジストレーション情報およびセッション情報を表示します。

# debug etherchannel

EtherChannel/PAGP シムのデバッグをイネーブルにするには、**debug etherchannel** 特権 EXEC コマンドを使用します。このシムは、ポート集約プロトコル (PAGP) ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のインターフェイスとなるソフトウェア モジュールです。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug etherchannel** [**all** | **detail** | **error** | **event** | **idb**]

**no debug etherchannel** [**all** | **detail** | **error** | **event** | **idb**]

## 構文の説明

<b>all</b>	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>detail</b>	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージの詳細を表示します。
<b>error</b>	(任意) EtherChannel エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	(任意) 主な EtherChannel イベント メッセージをデバッグします。
<b>idb</b>	(任意) PAGP インターフェイス記述子ブロック デバッグ メッセージを表示します。



(注)

**linecard** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

**undebg etherchannel** コマンドは、**no debug etherchannel** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show etherchannel</b>	チャンネルの EtherChannel 情報を表示します。

# debug ilpower

電源コントローラおよび Power over Ethernet (PoE) システムのデバッグをイネーブルにするには、**debug ilpower** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ilpower {cdp | controller | event | ha | port | powerman | registries}
```

```
no debug ilpower {cdp | controller | event | ha | port | powerman | registries}
```

## 構文の説明

<b>cdp</b>	PoE Cisco Discovery Protocol (CDP) デバッグ メッセージを表示します。
<b>controller</b>	PoE コントローラ デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	PoE イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>ha</b>	PoE ハイ アベイラビリティ メッセージを表示します。
<b>port</b>	PoE ポート マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>powerman</b>	PoE 電力管理デバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	PoE レジストリ デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(44)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、PoE 対応スイッチだけでサポートされています。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show controllers power inline</a>	指定した PoE コントローラのレジスタ値を表示します。
<a href="#">show power inline</a>	指定した PoE ポートまたはすべての PoE ポートの電源ステータスを表示します。

# debug interface

インターフェイス関連のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug interface** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug interface {interface-id | null interface-number | port-channel port-channel-number
                | vlan vlan-id}
```

```
no debug interface {interface-id | null interface-number | port-channel
                   port-channel-number | vlan vlan-id}
```

## 構文の説明

<i>interface-id</i>	タイプ スイッチ番号/モジュール番号/ポート（例： <b>gigabitethernet 0/2</b> ）によって識別される指定された物理ポートのデバッグ メッセージを表示します。
<i>null interface-number</i>	ヌル インターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。 <i>interface-number</i> は常に <b>0</b> です。
<b>port-channel</b> <i>port-channel-number</i>	指定された EtherChannel ポートチャネル インターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。 <i>port-channel-number</i> は 1～6 です。
<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	指定した VLAN のデバッグ メッセージを表示します。指定できる <i>vlan id</i> の範囲は 1～4094 です。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

**undebug interface** コマンドは、**no debug interface** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show etherchannel</b>	チャネルの EtherChannel 情報を表示します。



# debug ip dhcp snooping

DHCP スヌーピングのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip dhcp snooping** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip dhcp snooping** {*mac-address* | **agent** | **event** | **packet**}

**no debug ip dhcp snooping** {*mac-address* | **agent** | **event** | **packet**}

## 構文の説明

<i>mac-address</i>	指定された MAC アドレスを持つ DHCP パケットのデバッグ メッセージを表示します。
<b>agent</b>	DHCP スヌーピング エージェントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	DHCP スヌーピング イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	DHCP スヌーピングのデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug ip dhcp snooping** コマンドは、**no debug ip dhcp snooping** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug ip verify source packet

IP 送信元ガードのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip verify source packet** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip verify source packet**

**no debug ip verify source packet**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(50)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug ip verify source packet** コマンドは、**no debug ip verify source packet** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug ip igmp filter

インターネットグループ管理プロトコル (IGMP) フィルタ イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp filter** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip igmp filter**

**no debug ip igmp filter**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug ip igmp filter** コマンドは、**no debug ip igmp filter** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug ip igmp max-groups

インターネット グループ管理プロトコル (IGMP) 最大グループ イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp max-groups** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip igmp max-groups**

**no debug ip igmp max-groups**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug ip igmp max-groups** コマンドは、**no debug ip igmp max-groups** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug ip igmp snooping

インターネットグループ管理プロトコル (IGMP) スヌーピング アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp snooping** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug ip igmp snooping [group | management | querier | router | timer]**

**no debug ip igmp snooping [group | management | querier | router | timer]**

## 構文の説明

<b>group</b>	(任意) IGMP スヌーピング グループ アクティビティのデバッグ メッセージを表示します。
<b>management</b>	(任意) IGMP スヌーピング管理アクティビティのデバッグ メッセージを表示します。
<b>querier</b>	(任意) IGMP スヌーピング クエリア デバッグ メッセージを表示します。
<b>router</b>	(任意) IGMP スヌーピング ルータ アクティビティのデバッグ メッセージを表示します。
<b>timer</b>	(任意) IGMP スヌーピング タイマー イベントのデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug ip igmp snooping** コマンドは、**no debug ip igmp snooping** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">debug platform ip igmp snooping</a>	プラットフォームに依存する IGMP スヌーピング アクティビティに関する情報を表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug lacp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug lacp** [**all** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]

**no debug lacp** [**all** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]

## 構文の説明

<b>all</b>	(任意) LACP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>event</b>	(任意) LACP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>fsm</b>	(任意) LACP 有限ステート マシン デバッグ メッセージを表示します。
<b>misc</b>	(任意) 各種 LACP デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) LACP パケット デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug lacp** コマンドは、**no debug lacp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show lacp</b>	LACP チャネル グループ情報を表示します。

# debug lldp packets

Link Layer Discovery Protocol (LLDP) のパケットのデバッグをイネーブルにするには、**debug lldp packets** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug lldp packets**

**no debug lldp packets**



(注)

このコマンドを使用するには、スイッチが LAN Base イメージを実行している必要があります。

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(50)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug lldp packets** コマンドは、**no debug lldp packets** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug mac-notification

MAC 通知イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug mac-notification** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug mac-notification**

**no debug mac-notification**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug mac-notification** コマンドは、**no debug mac-notification** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show mac address-table notification</b>	すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスに対する MAC アドレス通知情報を表示します。



# debug matm

プラットフォーム独立 MAC アドレス管理のデバッグをイネーブルにするには、**debug matm** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug matm**

**no debug matm**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug matm** コマンドは、**no debug matm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug platform matm</b>	プラットフォームに依存する MAC アドレス管理に関する情報を表示します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug matm move update

MAC アドレス テーブル移行更新メッセージ処理のデバッグをイネーブルにするには、**debug matm move update** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**debug matm move update**

**no debug matm move update**



(注)

このコマンドを使用するには、スイッチが LAN Base イメージを実行している必要があります。

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)SED	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug matm move update** コマンドは、**no debug matm move update** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>mac address-table move update</b> {receive   transmit}	スイッチに MAC アドレス テーブル移行更新機能を設定します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show mac address-table move update</b>	スイッチに MAC アドレス テーブル移行更新情報を表示します。

# debug monitor

スイッチドポートアナライザ (SPAN) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug monitor** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug monitor {all | errors | idb-update | info | list | notifications | platform | requests | snmp}
```

```
no debug monitor {all | errors | idb-update | info | list | notifications | platform | requests | snmp}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての SPAN デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	詳細 SPAN エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>idb-update</b>	SPAN Interface Description Block (IDB; インターフェイス デスクリプション ブロック) 更新トレース デバッグ メッセージを表示します。
<b>info</b>	SPAN 情報追跡デバッグ メッセージを表示します。
<b>list</b>	SPAN ポートおよび VLAN リスト追跡デバッグ メッセージを表示します。
<b>notifications</b>	SPAN 通知デバッグ メッセージを表示します。
<b>platform</b>	SPAN プラットフォーム追跡デバッグ メッセージを表示します。
<b>requests</b>	SPAN 要求デバッグ メッセージを表示します。
<b>snmp</b>	SPAN および Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) 追跡デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug monitor** コマンドは、**no debug monitor** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show monitor</b>	スイッチ上の SPAN および Remote SPAN (RSPAN) セッションについてのすべての情報を表示します。

# debug mvrdbg

マルチキャスト VLAN レジストレーション (MVR) のデバッグをイネーブルにするには、**debug mvrdbg** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug mvrdbg {all | events | igmpsn | management | ports}
```

```
no debug mvrdbg {all | events | igmpsn | management | ports}
```



(注)

このコマンドを使用するには、スイッチが LAN Base イメージを実行している必要があります。

## 構文の説明

<b>all</b>	MVR アクティビティ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>events</b>	MVR イベント処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>igmpsn</b>	MVR インターネット グループ管理プロトコル (IGMP) スヌーピング アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>management</b>	MVR 管理アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>ports</b>	MVR ポート デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug mvrdbg** コマンドは、**no debug mvrdbg** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show mvr</b>	現在の MVR 設定を表示します。

# debug nmosp

スイッチの Network Mobility Services Protocol (NMSP; ネットワーク モビリティ サービス プロトコル) のデバッグをイネーブルにするには、**debug nmosp** 特権 EXEC コマンドを使用します。このコマンドは、スイッチで暗号化ソフトウェア イメージが実行されている場合にだけ利用できます。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug nmosp {all | connection | error | event | packet | rx | tx}**

**no debug nmosp**



(注)

このコマンドを使用するには、スイッチが LAN Base イメージを実行している必要があります。

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(50)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug nmosp** コマンドは、**no debug nmosp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show nmosp</b>	NMSP 情報を表示します。

# debug nvram

NVRAM のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug nvram** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug nvram**

**no debug nvram**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg nvram** コマンドは、**no debug nvram** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug pagp

ポート集約プロトコル (PAgP) のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug pagp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug pagp** [**all** | **dual-active** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]

**no debug pagp** [**all** | **dual-active** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]



(注)

このコマンドを使用するには、スイッチが LAN Base イメージを実行している必要があります。

## 構文の説明

<b>all</b>	(任意) PAgP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>dual-active</b>	(任意) デュアル アクティブ検出メッセージを表示します。
<b>event</b>	(任意) PAgP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>fsm</b>	(任意) PAgP 有限ステート マシン デバッグ メッセージを表示します。
<b>misc</b>	(任意) 各種 PAgP デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) PAgP パケット デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。
12.2(46)SE	<b>dual-active</b> キーワードが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug pagp** コマンドは、**no debug pagp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show pagp</b>	PAgP チャネル グループ情報を表示します。



# debug platform acl

アクセス コントロール リスト (ACL) マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform acl** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform acl** {all | exit | label | main | stack | warn}

**no debug platform acl** {all | exit | label | main | warn}

## 構文の説明

<b>all</b>	ACL マネージャ デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>exit</b>	ACL 終了関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>label</b>	ACL ラベル関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>main</b>	主な、または重要な ACL デバッグ メッセージを表示します。
<b>stack</b>	ACL スタック関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>warn</b>	ACL 警告関連デバッグ メッセージを表示します。



(注) **racl**、**vacl**、および **vmap** キーワードはコマンドラインのヘルプ スtringには表示されますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。
12.2(53)SE1	<b>stack</b> キーワードが、LAN Base イメージを実行している Catalyst 2960-S スイッチにだけ追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform acl** コマンドは、**no debug platform acl** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform backup interface

Flex Link プラットフォーム バックアップ インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform backup interface** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform backup interface**

**no debug platform backup interface**



(注)

このコマンドを使用するには、スイッチが LAN Base イメージを実行している必要があります。

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

プラットフォーム バックアップ インターフェイス デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform backup interface** コマンドは、**no debug platform backup interface** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform cisp

Client Information Signalling Protocol (CISP) 対応インターフェイスが 1 つ以上あるスイッチのプラットフォーム レベル デバッグをイネーブルにするには、**debug platform cisp** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform cisp [initialization | interface-configuration | rpc]**

**no debug platform cisp [initialization | interface-configuration | rpc]**

## 構文の説明

<b>initialization</b>	CISP 初期化シーケンスのデバッグをイネーブルにします。
<b>interface-configuration</b>	CISP 設定のデバッグをイネーブルにします。
<b>rpc</b>	CISP RPC 要求のデバッグをイネーブルにします。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(50)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg platform cisp** コマンドは、**no debug platform cisp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始して、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number <line>** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cisp enable</b>	Client Information Signalling Protocol (CISP) をイネーブルにします。
<b>dot1x credentials</b> (グローバル コンフィギュレーション) <i>profile</i>	プロファイルをサブリカント スイッチに設定します。
<b>show cisp</b>	指定されたインターフェイスの CISP 情報を表示します。

# debug platform cli-redirect main

主要（重要）なコマンドライン インターフェイス（CLI）リダイレクション イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform cli-redirect main** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform cli-redirect main**

**no debug platform cli-redirect main**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(53)SE1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform cli-redirect main** コマンドは、**no debug platform cli-redirect main** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

## 構文の説明

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(53)SE1	このコマンドが、LAN Base イメージを実行している Catalyst 2960-S スイッチにだけ追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebug platform configuration** コマンドは、**no debug platform configuration** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform cpu-queues

プラットフォーム CPU 受信キューのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform cpu-queues** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform cpu-queues {broadcast-q | cbt-to-spt-q | cpuhub-q | host-q | icmp-q |
  igmp-snooping-q | layer2-protocol-q | logging-q | remote-console-q | software-fwd-q
  | stp-q}
```

```
no debug platform cpu-queues {broadcast-q | cbt-to-spt-q | cpuhub-q | host-q | icmp-q
  | igmp-snooping-q | layer2-protocol-q | logging-q | remote-console-q |
  software-fwd-q | stp-q}
```

## 構文の説明

<b>broadcast-q</b>	ブロードキャスト キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>cbt-to-spt-q</b>	core-based tree to shortest-path tree (cbt-to-spt) キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>cpuhub-q</b>	CPU ハートビート キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>host-q</b>	ホスト キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>icmp-q</b>	インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>igmp-snooping-q</b>	インターネット グループ管理プロトコル (IGMP) スヌーピング キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>layer2-protocol-q</b>	レイヤ 2 プロトコル キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>logging-q</b>	ロギング キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>remote-console-q</b>	リモート コンソール キューによって受信されたパケットに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>software-fwd-q</b>	ソフトウェア フォワーディング キューによって受信されたパケットをデバッグします。
<b>stp-q</b>	Spanning-Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル) キューによって受信されたパケットをデバッグします。



(注)

**routing-protocol-Q** および **rpffail-q** キーワードは、コマンドラインのヘルプ ストリングには表示されていませんが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

---

**コマンド履歴**

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

---

---

**使用上のガイドライン**

**undebg platform cpu-queues** コマンドは、**no debug platform cpu-queues** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

---

# debug platform dot1x

IEEE 802.1x イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform dot1x** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform dot1x** {initialization | interface-configuration | rpc}

**no debug platform dot1x** {initialization | interface-configuration | rpc}

## 構文の説明

<b>initialization</b>	IEEE 802.1x 認証初期化シーケンス デバッグ メッセージを表示します。
<b>interface-configuration</b>	IEEE 802.1x インターフェイス コンフィギュレーション関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	IEEE 802.1x リモート プロシージャ コール (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform dot1x** コマンドは、**no debug platform dot1x** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug platform etherchannel

プラットフォームに依存する EtherChannel イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform etherchannel** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform etherchannel {init | link-up | rpc | warnings}
```

```
no debug platform etherchannel {init | link-up | rpc | warnings}
```

## 構文の説明

<b>init</b>	EtherChannel モジュール初期化デバッグ メッセージを表示します。
<b>link-up</b>	EtherChannel リンクアップおよびリンクダウンに関連したデバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	EtherChannel Remote Procedure Call (RPC; リモートプロシージャコール) デバッグ メッセージを表示します。
<b>warnings</b>	EtherChannel 警告デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform etherchannel** コマンドは、**no debug platform etherchannel** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform forw-tcam

フォワーディング Ternary Content Addressable Memory (TCAM) マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform forw-tcam** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform forw-tcam** [adjustment | allocate | audit | error | move | read | write]

**no debug platform forw-tcam** [adjustment | allocate | audit | error | move | read | write]

## 構文の説明

<b>adjustment</b>	(任意) TCAM マネージャ調整デバッグ メッセージを表示します。
<b>allocate</b>	(任意) TCAM マネージャ割り当てデバッグ メッセージを表示します。
<b>audit</b>	(任意) TCAM マネージャ監査メッセージを表示します。
<b>error</b>	(任意) TCAM マネージャ エラー メッセージを表示します。
<b>move</b>	(任意) TCAM マネージャ移行メッセージを表示します。
<b>read</b>	(任意) TCAM マネージャ読み込みメッセージを表示します。
<b>write</b>	(任意) TCAM マネージャ書き込みメッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キーワードが指定されない場合、転送 TCAM マネージャ デバッグ メッセージがすべて表示されます。

**undebug platform forw-tcam** コマンドは、**no debug platform forw-tcam** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform frontend-controller

フロントエンドコントローラ アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform frontend-controller** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform frontend-controller {all | image | led | manager | poe | register | thermal}
```

```
no debug platform frontend-controller {all | image | led | manager | poe | register | thermal}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	フロントエンドコントローラのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>image</b>	Image Manager デバッグ メッセージを表示します。
<b>led</b>	LED デバッグ メッセージを表示します。
<b>manager</b>	フロントエンドコントローラ マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>poe</b>	Power over Ethernet (PoE) デバッグ メッセージを表示します。
<b>register</b>	Register Access デバッグ メッセージを表示します。
<b>thermal</b>	温度デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(40)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、PoE スイッチだけでサポートされています。

**undebug platform frontend-controller** コマンドは、**no debug platform frontend-controller** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show platform frontend-controller</a>	フロントエンドコントローラ マネージャとその従属アプリケーションのカウンタおよびステータス情報を表示します。また、フロントエンドコントローラのハードウェアおよびソフトウェア情報を表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ip arp inspection

ダイナミック アドレス解決プロトコル (ARP) 検査イベントをデバッグするには、**debug platform ip arp inspection** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform ip arp inspection {all | error | event | packet | rpc}**

**no debug platform ip arp inspection {all | error | event | packet | rpc}**

## 構文の説明

<b>all</b>	すべてのダイナミック ARP 検査デバッグ メッセージを表示します。
<b>error</b>	ダイナミック ARP 検査エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	ダイナミック ARP 検査イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	ダイナミック ARP 検査パケット関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	ダイナミック ARP 検査リモート プロシージャ コール (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(50)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform ip arp inspection** コマンドは、**no debug platform ip arp inspection** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show inventory</a>	ダイナミック ARP 検査の設定および動作ステータスを表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ip dhcp

DHCP イベントをデバッグするには、**debug platform ip dhcp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform ip dhcp [all | error | event | packet | rpc]**

**no debug platform ip dhcp [all | error | event | packet | rpc]**

## 構文の説明

<b>all</b>	(任意) DHCP デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>error</b>	(任意) DHCP エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	(任意) DHCP イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) DHCP パケット関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	(任意) DHCP リモート プロシージャ コール (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform ip dhcp** コマンドは、**no debug platform ip dhcp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ip dhcp snooping</b>	DHCP スヌーピング設定を表示します。
<b>show ip dhcp snooping binding</b>	DHCP スヌーピング バインディング情報を表示します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ip igmp snooping

プラットフォーム依存型インターネットグループ管理プロトコル (IGMP) スヌーピングのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ip igmp snooping** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip igmp snooping {all | di | error | event | group | mgmt | pak | retry | rpc | warn}
```

```
debug platform ip igmp snooping pak {ip-address | error | ipopt | leave | query | report | rx | svi | tx}
```

```
debug platform ip igmp snooping rpc [cfg | misc | vlan]
```

```
no debug platform ip igmp snooping {all | di | error | event | group | mgmt | pak | retry | rpc | warn}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての IGMP スヌーピング デバッグ メッセージを表示します。
<b>di</b>	IGMP スヌーピング宛先インデックス (di) 調整リモートプロシージャ コール (RPC) デバッグ メッセージを表示します。
<b>error</b>	IGMP スヌーピング エラー メッセージを表示します。
<b>event</b>	IGMP スヌーピング イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>group</b>	IGMP スヌーピング グループ デバッグ メッセージを表示します。
<b>mgmt</b>	IGMP スヌーピング管理デバッグ メッセージを表示します。
<b>pak</b> { <i>ip-address</i>   <b>error</b>   <b>ipopt</b>   <b>leave</b>   <b>query</b>   <b>report</b>   <b>rx</b>   <b>svi</b>   <b>tx</b> }	<p>IGMP スヌーピング パケット イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ip-address</b> : IGMP グループの IP アドレス</li> <li>• <b>error</b> : IGMP スヌーピング パケット エラー デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ipopt</b> : IGMP スヌーピング IP ブリッジング オプション デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>leave</b> : IGMP スヌーピング脱退デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>query</b> : IGMP スヌーピング クエリー デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>report</b> : IGMP スヌーピング レポート デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>rx</b> : IGMP スヌーピング受信パケット デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>svi</b> : IGMP スヌーピング Switched Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) パケット デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>tx</b> : IGMP スヌーピング送信パケット デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>retry</b>	IGMP スヌーピング リトライ デバッグ メッセージを表示します。

<b>rpc</b> [cfg   misc   vlan]	IGMP スヌーピング リモート プロシージャ コール (RPC) イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>cfg</b> : (任意) IGMP スヌーピング RPC デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>misc</b> : (任意) IGMP スヌーピングのその他の RPC デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>vlan</b> : (任意) IGMP スヌーピング VLAN アサート RPC デバッグ メッセージ</li> </ul>
<b>warn</b>	IGMP スヌーピング警告メッセージを表示します。



(注)

**rpc l3mm** キーワードは、コマンドラインのヘルプ ストリングには表示されていますが、サポートされていません。

### デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンドモード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**undebug platform ip igmp snooping** コマンドは、**no debug platform ip igmp snooping** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug ip igmp snooping</b>	プラットフォーム独立 IGMP スヌーピング アクティビティに関する情報を表示します。
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform ip source-guard

IP 送信元ガード イベントをデバッグするには、**debug platform ip source-guard** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip source-guard {all | error | event}
```

```
no debug platform ip source-guard {all | error | event }
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての IP 送信元ガード プラットフォーム デバッグ メッセージを表示します。
<b>error</b>	IP 送信元ガード プラットフォーム エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	IP 送信元ガード プラットフォーム イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(50)SE	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebbug platform ip source-guard** コマンドは、**no debug platform ip source-guard** コマンドと同じです。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show ip verify source</a>	IP 送信元ガードの設定を表示します。
<a href="#">show debugging</a>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug platform led

Light-Emitting Diode (LED) 動作のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform led** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform led {generic | signal | stack}
```

```
no debug platform led {generic | signal | stack}
```

## 構文の説明

<b>generic</b>	LED 総称アクションデバッグメッセージを表示します。
<b>signal</b>	LED 信号ビット マップ デバッグメッセージを表示します。
<b>stack</b>	LED スタック アクションデバッグメッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。
12.2(53)SE1	<b>stack</b> キーワードが、LAN Base イメージを実行している Catalyst 2960-S スイッチにだけ追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform led** コマンドは、**no debug platform led** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform matm

プラットフォームに依存する MAC アドレス管理のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform matm** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform matm {aging | all | ec-aging | errors | learning | rpc | secure-address |
  warnings}
```

```
no debug platform matm {aging | all | ec-aging | errors | learning | rpc | secure-address
  | warnings}
```

## 構文の説明

<b>aging</b>	MAC アドレス エージング デバッグ メッセージを表示します。
<b>all</b>	すべてのプラットフォーム MAC アドレス管理イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>ec-aging</b>	EtherChannel アドレス エージング関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	MAC アドレス管理エラー メッセージを表示します。
<b>learning</b>	MAC アドレス管理アドレス ラーニング デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	MAC アドレス管理リモート プロシージャ コール (RPC) 関連デバッグ メッセージを表示します。
<b>secure-address</b>	MAC アドレス管理セキュア アドレス ラーニング デバッグ メッセージを表示します。
<b>warning</b>	MAC アドレス管理警告メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform matm** コマンドは、**no debug platform matm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>debug matm</code>	プラットフォーム独立 MAC アドレス管理に関する情報を表示します。
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform messaging application

アプリケーション メッセージング アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform messaging application** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform messaging application {all | badpak | cleanup | events | memerr | messages | stackchg | usererr}**

**no debug platform messaging application {all | badpak | cleanup | events | memerr | messages | stackchg | usererr}**

## 構文の説明

<b>all</b>	すべてのアプリケーション メッセージング デバッグ メッセージを表示します。
<b>badpak</b>	不良パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>cleanup</b>	クリーンアップ デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>memerr</b>	メモリ エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>messages</b>	アプリケーション メッセージング デバッグ メッセージを表示します。
<b>stackchg</b>	スタック変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>usererr</b>	ユーザ エラー デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。
12.2(53)SE1	<b>stackchg</b> キーワードが、LAN Base イメージを実行している Catalyst 2960-S スイッチにだけ追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform messaging application** コマンドは、**no debug platform messaging application** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform phy

PHY ドライバ情報のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform phy** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform phy {automdix | cablediag | dual-purpose | flcd {configure | ipc | iter |
  trace} | flowcontrol | forced | init-seq | link-status | read | sfp | show-controller | speed
  | write | xenpak}
```

```
no debug platform phy {automdix | cablediag | dual-purpose | flcd {configure | ipc | iter
  | trace} | flowcontrol | forced | init-seq | link-status | read | sfp | show-controller |
  speed | write | xenpak}
```

## 構文の説明

<b>automdix</b>	PHY Automatic Medium-Dependent Interface Crossover (Auto-MDIX) デバッグ メッセージを表示します。
<b>cablediag</b>	PHY ケーブル診断デバッグ メッセージを表示します。
<b>dual-purpose</b>	PHY 兼用イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>flcd {configure   ipc   iter   trace}</b>	PHY FLCD デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>configure</b> : PHY 設定デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ipc</b> : Interprocess Communication (IPC; プロセス間通信) デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>iter</b> : iter デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>trace</b> : 追跡デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>flowcontrol</b>	PHY フロー制御デバッグ メッセージを表示します。
<b>forced</b>	PHY 強制モード デバッグ メッセージを表示します。
<b>init-seq</b>	PHY 初期化シーケンス デバッグ メッセージを表示します。
<b>link-status</b>	PHY リンクステータス デバッグ メッセージを表示します。
<b>read</b>	PHY 読み取りデバッグ メッセージを表示します。
<b>sfp</b>	小型フォーム ファクタ (SFP) モジュール デバッグ メッセージを表示します。
<b>show-controller</b>	PHY show-controller デバッグ メッセージを表示します。
<b>speed</b>	PHY 速度変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>write</b>	PHY 書き込みデバッグ メッセージを表示します。
<b>xenpak</b>	PHY XENPAK デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebg platform phy** コマンドは、**no debug platform phy** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform pm

プラットフォームに依存するポート マネージャ ソフトウェア モジュールのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform pm** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform pm {all | counters | errdisable | etherchnl | exceptions | hpm-events |
idb-events | if-numbers | ios-events | link-status | platform | pm-events | pm-span |
pm-vectors [detail] | rpc [general | oper-info | state | vectors | vp-events] |
soutput-vectors | stack-manager | sync | vlans}
```

```
no debug platform pm {all | counters | errdisable | etherchnl | exceptions | hpm-events |
idb-events | if-numbers | ios-events | link-status | platform | pm-events | pm-span |
pm-vectors [detail] | rpc [general | oper-info | state | vectors | vp-events] |
soutput-vectors | stack-manager | sync | vlans}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべてのポート マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>counters</b>	リモート プロシージャ コール (RPC) デバッグ メッセージのカウンタを表示します。
<b>errdisable</b>	errdisable 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>etherchnl</b>	EtherChannel 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>exceptions</b>	システム例外デバッグ メッセージを表示します。
<b>hpm-events</b>	プラットフォーム ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>idb-events</b>	Interface Descriptor Block (IDB) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>if-numbers</b>	インターフェイス番号トランスレーション イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>ios-events</b>	Cisco IOS イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>link-status</b>	インターフェイス リンク検出イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>platform</b>	ポート マネージャ機能イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>pm-events</b>	ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>pm-span</b>	ポート マネージャ Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>pm-vectors [detail]</b>	ポート マネージャ ベクタ関連イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>detail</b> : ベクタ機能詳細を表示します。</li> </ul>
<b>rpc [general   oper-info   state   vectors   vp-events]</b>	RPC 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>general</b> : (任意) RPC 一般イベントを表示します。</li> <li><b>oper-info</b> : (任意) 操作および情報関連 RPC メッセージを表示します。</li> <li><b>state</b> : (任意) 管理および操作関連 RPC メッセージを表示します。</li> <li><b>vectors</b> : (任意) ベクタ関連 RPC メッセージを表示します。</li> <li><b>vp-events</b> : (任意) 仮想ポート関連イベント RPC メッセージを表示します。</li> </ul>



<b>soutput-vectors</b>	IDB 出力ベクタ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>stack-manager</b>	スタック マネージャ関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>sync</b>	操作同期および VLAN ラインステート イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlan</b>	VLAN 作成および削除イベント デバッグ メッセージを表示します。

**デフォルト**

デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード**

特権 EXEC

**コマンド履歴**

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。
12.2(53)SE1	<b>stack-manager</b> キーワードが、LAN Base イメージを実行している Catalyst 2960-S スイッチにだけ追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebg platform pm** コマンドは、**no debug platform pm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform port-asic

ポート特定用途向け集積回路（ASIC）ドライバのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform port-asic** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform port-asic** {**interrupt** | **periodic** | **read** | **stack** | **write**}

**no debug platform port-asic** {**interrupt** | **periodic** | **read** | **stack** | **write**}

## 構文の説明

<b>interrupt</b>	ポート ASIC 割り込み関連機能デバッグ メッセージを表示します。
<b>periodic</b>	ポート ASIC 定期機能コール デバッグ メッセージを表示します。
<b>read</b>	ポート ASIC 読み取りデバッグ メッセージを表示します。
<b>stack</b>	スタック関連機能デバッグ メッセージを表示します。
<b>write</b>	ポート ASIC 書き込みデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。
12.2(53)SE1	<b>stack</b> キーワードが、LAN Base イメージを実行している Catalyst 2960-S スイッチにだけ追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform port-asic** コマンドは、**no debug platform port-asic** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform port-security

プラットフォームに依存するポートセキュリティ情報のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform port-security** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform port-security {add | aging | all | delete | errors | rpc | warnings}
```

```
no debug platform port-security {add | aging | all | delete | errors | rpc | warnings}
```

## 構文の説明

<b>add</b>	セキュア アドレス追加デバッグ メッセージを表示します。
<b>aging</b>	セキュア アドレス エージング デバッグ メッセージを表示します。
<b>all</b>	すべてのポートセキュリティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>delete</b>	セキュア アドレス削除デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	ポートセキュリティ エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	リモートプロシージャコール (RPC) デバッグ メッセージを表示します。
<b>warnings</b>	警告デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg platform port-security** コマンドは、**no debug platform port-security** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform qos-acl-tcam

Quality of Service (QoS) およびアクセス コントロール リスト (ACL) Ternary Content Addressable Memory (TCAM) マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform qos-acl-tcam** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform qos-acl-tcam {all | ctcam | errors | labels | mask | rpc | tcam}**

**no debug platform qos-acl-tcam {all | ctcam | errors | labels | mask | rpc | tcam}**

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての QoS および ACL TCAM (QATM) マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>ctcam</b>	Cisco TCAM (CTCAM) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	QATM エラー関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>labels</b>	QATM ラベル関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>mask</b>	QATM マスク関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	QATM リモート プロシージャ コール (RPC) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>tcam</b>	QATM TCAM 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg platform qos-acl-tcam** コマンドは、**no debug platform qos-acl-tcam** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform resource-manager

リソース マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform resource-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform resource-manager {all | dm | erd | errors | madmed | sd | stats | vld}**

**no debug platform resource-manager {all | dm | erd | errors | madmed | sd | stats | vld}**

## 構文の説明

<b>all</b>	すべてのリソース マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>dm</b>	宛先マップ デバッグ メッセージを表示します。
<b>erd</b>	等価コスト ルート記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>madmed</b>	MAC アドレス記述子テーブルおよびマルチエクспанション記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>sd</b>	ステーション記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
<b>stats</b>	統計デバッグ メッセージを表示します。
<b>vld</b>	VLAN リスト記述子デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform resource-manager** コマンドは、**no debug platform resource-manager** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform snmp

プラットフォームに依存する Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform snmp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform snmp**

**no debug platform snmp**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform snmp** コマンドは、**no debug platform snmp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform span

プラットフォームに依存するスイッチドポートアナライザ (SPAN) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform span** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform span**

**no debug platform span**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform span** コマンドは、**no debug platform span** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform stack-manager

スタック マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform stack-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform stack-manager {all | rpc | sdp | sim | ssm | trace}**

**no debug platform stack-manager {all | rpc | sdp | sim | ssm | trace}**

## 構文の説明

<b>all</b>	すべてのスタック マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	スタック マネージャ Remote Procedure Call (RPC; リモート プロシージャ コール) 使用状況デバッグ メッセージを表示します。
<b>sdp</b>	Stack Discovery Protocol (SDP; スタック ディスカバリ プロトコル) デバッグ メッセージを表示します。
<b>sim</b>	スタック情報モジュール デバッグ メッセージを表示します。
<b>ssm</b>	スタック ステートマシン デバッグ メッセージを表示します。
<b>trace</b>	スタック マネージャの入口と出口のデバッグ メッセージを追跡します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(53)SE1	このコマンドが、LAN Base イメージを実行している Catalyst 2960-S スイッチにだけ追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform stack-manager** コマンドは、**no debug platform stack-manager** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug platform supervisor-asic

スーパーバイザ特定用途向け集積回路（ASIC）のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform supervisor-asic** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform supervisor-asic {all | errors | receive | send}**

**no debug platform supervisor-asic {all | errors | receive | send}**

## 構文の説明

<b>all</b>	すべてのスーパーバイザ ASIC イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>errors</b>	スーパーバイザ ASIC エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>receive</b>	スーパーバイザ ASIC 受信デバッグ メッセージを表示します。
<b>send</b>	スーパーバイザ ASIC 送信デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform supervisor-asic** コマンドは、**no debug platform supervisor-asic** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform sw-bridge

ソフトウェアブリッジング機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform sw-bridge** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform sw-bridge {broadcast | control | multicast | packet | unicast}**

**no debug platform sw-bridge {broadcast | control | multicast | packet | unicast}**

## 構文の説明

<b>broadcast</b>	ブロードキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。
<b>control</b>	プロトコル パケット デバッグ メッセージを表示します。
<b>multicast</b>	マルチキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	送受信データ デバッグ メッセージを表示します。
<b>unicast</b>	ユニキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform sw-bridge** コマンドは、**no debug platform sw-bridge** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform tcam

Ternary Content Addressable Memory (TCAM) アクセスおよびルックアップのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform tcam** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform tcam {log | read | search | write}
```

```
debug platform tcam log l2 {acl {input | output} | local | qos}
```

```
debug platform tcam log l3 {acl {input | output} | qos}
```

```
debug platform tcam read {reg | ssram | tcam}
```

```
debug platform tcam search
```

```
debug platform tcam write {forw-ram | reg | tcam}
```

```
no debug platform tcam {log | read | search | write}
```

```
no debug platform tcam log l2 {acl {input | output} | local | qos}
```

```
no debug platform tcam log l3 {acl {input | output} | qos}
```

```
no debug platform tcam read {reg | ssram | tcam}
```

```
no debug platform tcam search
```

```
no debug platform tcam write {forw-ram | reg | tcam}
```

## 構文の説明

<b>log l2 {acl {input   output}   local   qos}</b>	レイヤ 2 フィールド ベース CAM ルックアップ タイプ デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>acl {input   output}</b>: 入力または出力 ACL ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>local</b>: ローカル フォワーディング ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>qos</b>: 分類および Quality of Service (QoS) ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>l3 {acl {input   output}   qos}</b>	レイヤ 3 フィールド ベース CAM ルックアップ タイプ デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>acl {input   output}</b>: 入力または出力 ACL ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>qos</b>: 分類および Quality of Service (QoS) ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>•</li> </ul>

<b>read {reg   ssram   tcam}</b>	TCAM 読み取りデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>reg</b> : TCAM レジスタ読み取りデバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>ssram</b> : Synchronous Static RAM (SSRAM) 読み取りデバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>tcam</b> : TCAM 読み取りデバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>search</b>	スーパーバイザ主導 TCAM サーチ結果デバッグ メッセージを表示します。
<b>write {forw-ram   reg   tcam}</b>	TCAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <p><b>forw-ram</b> : フォワーディング RAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p> <p><b>reg</b> : TCAM レジスタ書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p> <p><b>tcam</b> : TCAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p>



(注) **l3 ipv6 {acl {input | output} | local | qos | secondary}**、**l3 local**、および **l3 secondary** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtring に表示されますが、サポートされていません

**デフォルト**

デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード**

特権 EXEC

**コマンド履歴**

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebug platform tcam** コマンドは、**no debug platform tcam** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform uddl

プラットフォームに依存する Unidirectional Link Detection (UDLD; 単方向リンク検出) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform uddl** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug platform uddl [all | error | rpc {events | messages}]**

**no debug platform uddl [all | error | rpc {events | messages}]**

## 構文の説明

<b>all</b>	(任意) UDLD デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>error</b>	(任意) エラー条件デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc {events   messages}</b>	(任意) UDLD リモートプロシージャコール (RPC) デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>events</b> : UDLD RPC イベントを表示します。</li> <li>• <b>messages</b> : UDLD RPC メッセージを表示します。</li> </ul>

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform uddl** コマンドは、**no debug platform uddl** コマンドと同じです。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug platform vlan

VLAN マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform vlan** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform vlan {errors | mvid | rpc}
```

```
no debug platform vlan {errors | mvid | rpc}
```

## 構文の説明

<b>errors</b>	VLAN エラー デバッグ メッセージを表示します。
<b>mvid</b>	マッピングされた VLAN ID の割り当ておよびフリー デバッグ メッセージを表示します。
<b>rpc</b>	リモート プロシージャ コール (RPC) デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug platform vlan** コマンドは、**no debug platform vlan** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug pm

Port Manager (PM; ポート マネージャ) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug pm** 特権 EXEC コマンドを使用します。PM は、すべての論理および物理インターフェイスを制御するステート マシンです。VLAN や Unidirectional Link Detection (UDLD; 単方向リンク検出) などを含むすべての機能は、ポート マネージャと連携して、スイッチに機能を提供します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug pm {all | assert | card | etherchnl | hatable | messages | port | redundancy | registry
| sm | span | split | vlan | vp}
```

```
no debug pm {all | assert | card | etherchnl | hatable | messages | port | redundancy |
registry | sm | span | split | vlan | vp}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての PM デバッグ メッセージを表示します。
<b>assert</b>	アサート デバッグ メッセージを表示します。
<b>card</b>	ラインカード関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>etherchnl</b>	EtherChannel 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>hatable</b>	Host Access Table イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>messages</b>	PM デバッグ メッセージを表示します。
<b>port</b>	ポート関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>redundancy</b>	冗長デバッグ メッセージを表示します。
<b>registry</b>	PM レジストリ呼び出しデバッグ メッセージを表示します。
<b>sm</b>	ステート マシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>span</b>	スパニング ツリー関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>split</b>	スプリットプロセッサ デバッグ メッセージを表示します。
<b>vlan</b>	VLAN 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>vp</b>	仮想ポート関連イベント デバッグ メッセージを表示します。



(注) **scp** および **pvlan** キーワードはコマンドラインのヘルプ スtring に表示されますが、サポートされていません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## ■ debug pm

**使用上のガイドライン**

**undebg pm** コマンドは、**no debug pm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。



# debug port-security

ポートセキュリティ サブシステムの割り当ておよびステータスのデバッグをイネーブルにするには、**debug port-security** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug port-security**

**no debug port-security**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug port-security** コマンドは、**no debug port-security** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show port-security</b>	インターフェイスまたはスイッチのポートセキュリティ設定を表示します。

# debug qos-manager

Quality of Service (QoS) マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug qos-manager** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug qos-manager {all | event | verbose}
```

```
no debug qos-manager {all | event | verbose}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	すべての QoS マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
<b>event</b>	QoS マネージャ関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>verbose</b>	QoS マネージャ詳細デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug qos-manager** コマンドは、**no debug qos-manager** コマンドと同じです。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

# debug spanning-tree

スパニング ツリーのアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | etherchannel | events
| exceptions | general | mstp | pvst+ | root | snmp | switch | synchronization |
uplinkfast}
```

```
no debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | etherchannel |
events | exceptions | general | mstp | pvst+ | root | snmp | switch | synchronization |
uplinkfast}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	スパニング ツリーのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>backbonefast</b>	BackboneFast イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>bpdu</b>	スパニング ツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) デバッグ メッセージを表示します。
<b>bpdu-opt</b>	最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>config</b>	スパニング ツリー設定変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>csuf/csrt</b>	クロススタック UplinkFast およびクロススタック高速遷移アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>etherchannel</b>	EtherChannel サポート デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	スパニング ツリー トポロジ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>exceptions</b>	スパニング ツリー例外デバッグ メッセージを表示します。
<b>general</b>	一般的なスパニング ツリー アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
<b>mstp</b>	マルチ スパニング ツリー プロトコル (MSTP) イベントをデバッグします。
<b>pvst+</b>	Per-VLAN Spanning-Tree Plus (PVST+) イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>root</b>	スパニング ツリー ルート イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>snmp</b>	スパニング ツリー Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) 処理デバッグ メッセージを表示します。
<b>synchronization</b>	スパニング ツリー同期イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>switch</b>	スイッチ シム コマンド デバッグ メッセージを表示します。このシムは、一般的な Spanning-Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル) コードと、各スイッチ プラットフォーム固有コードとの間のインターフェイスとなるソフトウェア モジュールです。
<b>uplinkfast</b>	UplinkFast イベント デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## ■ debug spanning-tree

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。
	12.2(53)SE1	<b>csuf/csrt</b> キーワードが、LAN Base イメージを実行している Catalyst 2960-S スイッチにだけ追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg spanning-tree** コマンドは、**no debug spanning-tree** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree backbonefast

スパニング ツリー BackboneFast イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree backbonefast** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree backbonefast** [detail | exceptions]

**no debug spanning-tree backbonefast** [detail | exceptions]

## 構文の説明

<b>detail</b>	(任意) BackboneFast デバッグ メッセージの詳細を表示します。
<b>exceptions</b>	(任意) スパニング ツリー BackboneFast 例外のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg spanning-tree backbonefast** コマンドは、**no debug spanning-tree backbonefast** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree bpdu

送受信されたスパニング ツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) のデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree bpdu** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree bpdu [receive | transmit]**

**no debug spanning-tree bpdu [receive | transmit]**

## 構文の説明

<b>receive</b>	(任意) 受信 BPDU 用非最適化パスのデバッグ メッセージを表示します。
<b>transmit</b>	(任意) 送信された BPDU デバッグ メッセージについて、最適化されないパスを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug spanning-tree bpdu** コマンドは、**no debug spanning-tree bpdu** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree bpdu-opt

最適化されたスパニング ツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) 処理のデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree bpdu-opt** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree bpdu-opt [detail | packet]**

**no debug spanning-tree bpdu-opt [detail | packet]**

## 構文の説明

<b>detail</b>	(任意) 最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージの詳細を表示します。
<b>packet</b>	(任意) パケット レベルの最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg spanning-tree bpdu-opt** コマンドは、**no debug spanning-tree bpdu-opt** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree mstp

マルチ スパニング ツリー プロトコル (MSTP) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree mstp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree mstp {all | boundary | bpdu-rx | bpdu-tx | errors | flush | init |
migration | pm | proposals | region | roles | sanity_check | sync | tc | timers}
```

```
no debug spanning-tree mstp {all | boundary | bpdu-rx | bpdu-tx | errors | flush | init |
migration | pm | proposals | region | roles | sanity_check | sync | tc | timers}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	デバッグ メッセージをすべてイネーブルにします。
<b>boundary</b>	次に示す境界上でのフラグ変更をデバッグします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>マルチ スパニング ツリー (MST) リージョンと、高速スパニング ツリー プロトコル (RSTP) が稼動する単一のスパニング ツリー リージョンとの境界</li> <li>MST リージョンと、802.1D が稼動する単一のスパニング ツリー リージョンとの境界</li> <li>MST リージョンと、設定が異なる別の MST リージョンとの境界</li> </ul>
<b>bpdu-rx</b>	受信した MST Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) をデバッグします。
<b>bpdu-tx</b>	送信された MST BPDU をデバッグします。
<b>errors</b>	MSTP エラーをデバッグします。
<b>flush</b>	ポート フラッシュ メカニズムをデバッグします。
<b>init</b>	MSTP データ構造の初期化をデバッグします。
<b>migration</b>	プロトコル移行ステート マシンをデバッグします。
<b>pm</b>	MSTP ポート マネージャ イベントをデバッグします。
<b>proposals</b>	指定スイッチとルート スイッチ間のハンドシェイク メッセージをデバッグします。
<b>region</b>	Switch Processor (SP; スイッチ プロセッサ) と Route Processor (RP; ルート プロセッサ) 間のリージョン同期をデバッグします。
<b>roles</b>	MSTP のロールをデバッグします。
<b>sanity_check</b>	受信した BPDU の正常性確認メッセージをデバッグします。
<b>sync</b>	ポート同期イベントをデバッグします。
<b>tc</b>	トポロジ変更通知イベントをデバッグします。
<b>timers</b>	開始、停止、および期限切れイベントの MSTP タイマーをデバッグします。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。



**使用上のガイドライン**

**undebg spanning-tree mstp** コマンドは、**no debug spanning-tree mstp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree switch

Spanning-Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル) ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のソフトウェア インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree switch** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree switch {all | errors | flush | general | helper | pm | rx {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode] | uplinkfast}
```

```
no debug spanning-tree switch {all | errors | flush | general | helper | pm | rx {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode] | uplinkfast}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	スパニング ツリー スイッチのデバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>errors</b>	スパニング ツリー ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のインターフェイスに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>flush</b>	シム フラッシュ動作に関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>general</b>	一般イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>helper</b>	スパニング ツリー ヘルパー タスク デバッグ メッセージを表示します。ヘルパー タスクは大容量スパニング ツリー更新を処理します。
<b>pm</b>	ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>rx</b>	受信した Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコル データ ユニット) 処理のデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>decode</b> : デコード済み受信パケットを表示します。</li> <li>• <b>errors</b> : 受信エラー デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>interrupt</b> : Interrupt Service Request (ISR; 割り込みサービス要求) デバッグ メッセージを表示します。</li> <li>• <b>process</b> : 処理受信 BPDU デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>state</b>	スパニング ツリー ポート ステート変更デバッグ メッセージを表示します。
<b>tx [decode]</b>	送信された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>decode</b> : (任意) デコードされた送信パケットを表示します。</li> </ul>
<b>uplinkfast</b>	UplinkFast パケット送信デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

**undebg spanning-tree switch** コマンドは、**no debug spanning-tree switch** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug spanning-tree uplinkfast

スパンニング ツリー UplinkFast イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree uplinkfast** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug spanning-tree uplinkfast [exceptions]**

**no debug spanning-tree uplinkfast [exceptions]**

## 構文の説明

**exceptions** (任意) スパニング ツリー UplinkFast 例外のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug spanning-tree uplinkfast** コマンドは、**no debug spanning-tree uplinkfast** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show spanning-tree</b>	スパンニング ツリー ステート情報を表示します。

# debug sw-vlan

VLAN マネージャのアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | management |
mapping | notification | packets | redundancy | registries | vtp}
```

```
no debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | management |
mapping | notification | packets | redundancy | registries | vtp}
```

## 構文の説明

<b>badpmcookies</b>	不良ポート マネージャ クッキーの VLAN マネージャ インシデントに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>cfg-vlan {bootup   cli}</b>	config-vlan デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>bootup</b> : スイッチがブートアップするときにメッセージを表示します。</li> <li><b>cli</b> : コマンドライン インターフェイス (CLI) が config-vlan モードである場合のメッセージを表示します。</li> </ul>
<b>events</b>	VLAN マネージャ イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>ifs</b>	<a href="#">debug sw-vlan ifs</a> コマンドを参照してください。
<b>management</b>	内部 VLAN の VLAN マネージャ管理のデバッグ メッセージを表示します。
<b>mapping</b>	VLAN マッピングのデバッグ メッセージを表示します。
<b>notification</b>	<a href="#">debug sw-vlan notification</a> コマンドを参照してください。
<b>packets</b>	パケット処理およびカプセル化プロセスのデバッグ メッセージを表示します。
<b>redundancy</b>	VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランキング プロトコル) VLAN 冗長性のデバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	VLAN マネージャ レジストリのデバッグ メッセージを表示します。
<b>vtp</b>	<a href="#">debug sw-vlan vtp</a> コマンドを参照してください。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebg sw-vlan** コマンドは、**no debug sw-vlan** コマンドと同じです。

## ■ debug sw-vlan

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show vlan</b>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。
<b>show vtp</b>	VTP 管理ドメイン、ステータス、およびカウンタに関する一般情報を表示します。

# debug sw-vlan ifs

VLAN マネージャ IOS File System (IFS) エラー テストのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan ifs** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

```
no debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

## 構文の説明

<b>open {read   write}</b>	VLAN マネージャ IFS ファイルオープン操作デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>read</b> : VLAN マネージャ IFS ファイル読み取り動作のデバッグ メッセージを表示します。</li> <li><b>write</b> : VLAN マネージャ IFS ファイル書き込み操作デバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>read {1   2   3   4}</b>	指定されたエラー テスト (1、2、3、または 4) に関するファイル読み取り動作のデバッグ メッセージを表示します。
<b>write</b>	ファイル書き込み動作のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan ifs** コマンドは、**no debug sw-vlan ifs** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

ファイルの読み取り処理に処理 **1** を選択すると、ヘッダー検証ワードおよびファイル バージョン番号が格納されたファイル ヘッダーが読み込まれます。処理 **2** を指定すると、ドメインおよび VLAN 情報の大部分が格納されたファイル本体が読み取られます。処理 **3** を指定すると、Type Length Version (TLV) 記述子構造が読み取られます。処理 **4** を指定すると、TLV データが読み取られます。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show vlan</b>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。



# debug sw-vlan notification

Inter-Link Switch (ISL; スイッチ間リンク) VLAN ID のアクティブ化および非アクティブ化のデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan notification** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan notification {acbfdchange | allowedvlanfcgchange | fwdchange |
linkchange | modechange | pruningfcgchange | statechange}
```

```
no debug sw-vlan notification {acbfdchange | allowedvlanfcgchange | fwdchange |
linkchange | modechange | pruningfcgchange | statechange}
```

## 構文の説明

<b>acbfdchange</b>	集約アクセス インターフェイス スパニング ツリー転送変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>allowedvlanfcgchange</b>	許可 VLAN の設定変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>fwdchange</b>	スパニング ツリー転送変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>linkchange</b>	インターフェイス リンクステート変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>modechange</b>	インターフェイス モード変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>pruningfcgchange</b>	プルーニング設定変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>statechange</b>	インターフェイス ステート変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan notification** コマンドは、**no debug sw-vlan notification** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show vlan</b>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。

# debug sw-vlan vtp

VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランキング プロトコル) コードのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan vtp** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning [packets | xmit] | redundancy | xmit}
```

```
no debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning | redundancy | xmit}
```

## 構文の説明

<b>events</b>	汎用の論理フローのデバッグ メッセージおよび VTP コード内の VTP_LOG_RUNTIME マクロによって生成された VTP メッセージの詳細を表示します。
<b>packets</b>	IOS VTP プラットフォーム依存層から VTP コードに渡されたすべての着信 VTP パケット (プルーンング パケットを除く) の内容のデバッグ メッセージを表示します。
<b>pruning [packets   xmit]</b>	VTP コードのプルーンング セグメントによって生成されるデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>packets</b> : (任意) IOS VTP プラットフォーム依存層から VTP コードに渡されたすべての着信 VTP プルーンング パケットの内容のデバッグ メッセージを表示します。</li> <li><b>xmit</b> : (任意) VTP コードが IOS VTP プラットフォーム依存層に送信するように要求したすべての発信 VTP パケットの内容のデバッグ メッセージを表示します。</li> </ul>
<b>redundancy</b>	VTP 冗長性のデバッグ メッセージを表示します。
<b>xmit</b>	VTP コードが IOS VTP プラットフォーム依存層に送信するように要求したすべての発信 VTP パケット (プルーンング パケットを除く) の内容のデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan vtp** コマンドは、**no debug sw-vlan vtp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## ■ debug sw-vlan vtp

**pruning** キーワードの後にパラメータを指定しない場合は、VTP プルーニング デバッグ メッセージが表示されます。これらのメッセージは、VTP プルーニング コード内の VTP\_PRUNING\_LOG\_NOTICE、VTP\_PRUNING\_LOG\_INFO、VTP\_PRUNING\_LOG\_DEBUG、VTP\_PRUNING\_LOG\_ALERT、および VTP\_PRUNING\_LOG\_WARNING マクロによって生成されます。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show vtp</b>	VTP 管理ドメイン、ステータス、およびカウンタに関する一般情報を表示します。

# debug udld

Unidirectional Link Detection (UDLD; 単方向リンク検出) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug udld** 特権 EXEC コマンドを使用します。UDLD デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug udld {events | packets | registries}
```

```
no debug udld {events | packets | registries}
```

## 構文の説明

<b>events</b>	UDLD プロセス イベントが発生したときのデバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	UDLD プロセスがパケット キューからパケットを受信し、UDLD プロトコル コードの要求に回答してそれらを送信するときに、このプロセスのデバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	UDLD プロセスが UDLD プロセスに依存するモジュールおよびその他のフィチャ モジュールからのレジストリ コールを処理するときに、このプロセスのデバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug udld** コマンドは、**no debug udld** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバスイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**debug udld events** を入力すると、次に示すデバッグ メッセージが表示されます。

- 一般的な UDLD プログラム論理フロー
- ステート マシンのステート変更
- errdisable ステートの設定および消去のプログラム アクション
- ネイバー キャッシュの追加および削除
- コンフィギュレーション コマンドの処理
- リンクアップおよびリンクダウン通知処理

**debug uddld packets** を入力すると、次に示すデバッグ メッセージが表示されます。

- 着信パケット受信時の一般的なパケット処理プログラム フロー
- 受信したパケットをパケット受信コードで調べるときの、各パケットの内容の識別情報 (Type Length Version (TLV) など)
- パケット送信の試行内容およびその成果

**debug uddld registries** を入力すると、次に示すカテゴリのデバッグ メッセージが表示されます。

- サブブロックの作成
- ファイバポート ステータスの変更
- ポート マネージャ ソフトウェアからのステート変更通知情報
- MAC アドレス レジストリ コール

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。
<b>show uddld</b>	すべてのポートまたは指定されたポートの UDDLD の管理ステータスおよび動作ステータスを表示します。

# debug vqpc

VLAN Query Protocol (VQP) クライアントのデバッグをイネーブルにするには、**debug vqpc** 特権 EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug vqpc** [**all** | **cli** | **events** | **learn** | **packet**]

**no debug vqpc** [**all** | **cli** | **events** | **learn** | **packet**]

## 構文の説明

<b>all</b>	(任意) VQP クライアント デバッグ メッセージをすべて表示します。
<b>cli</b>	(任意) VQP クライアント コマンドライン インターフェイス (CLI) デバッグ メッセージを表示します。
<b>events</b>	(任意) VQP クライアント イベント デバッグ メッセージを表示します。
<b>learn</b>	(任意) VQP クライアント アドレス ラーニング デバッグ メッセージを表示します。
<b>packet</b>	(任意) VQP クライアント パケット情報デバッグ メッセージを表示します。

## デフォルト

デバッグはディセーブルです。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.2(25)FX	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**undebug vqpc** コマンドは、**no debug vqpc** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターだけでデバッグがイネーブルになります。スタック メンバのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバ スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** 特権 EXEC コマンドを使用します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show debugging</b>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。

■ debug vqpc